

# コスト・ラムロ कस्तौ राम्रो

2001年1月発行



[報告記]

## 1 2 3 ブジュン村「徳島の日」出席と 電灯のある暮らしに触れて

徳島ネパール友好協会々長 天野 親聡

すべての会員のみなさん！！

私たちにとって、ブジュン村の点灯という歴史的な年（1999.2000）を経て、新年「21世紀」を迎えられることを共に喜び合いたいと思います。

さて既に新聞紙上等で報道されていますが、一昨年ブジュン小型水力発電所が完成。点灯した12月3日をブジュン村では「徳島の日」と命名しました。そして昨年同日、丸1年が経過し、1回目の記念日となりました。

そこで当協会では、村民のみなさんと共に現地で記念日を祝おうと、会員のみなさんに呼びかけたところ7名の方から申し出があり、使節団を結成、訪問し、村民との交流や点灯後の暮らしぶりを調査してきました。

この度の訪問は記念式典の出席にとどまらず、村の自然環境保全と生活改善（発展）が大きな狙いであった、電灯がともることにより、生活にどのような変化をもたらしたのかに、非常に関心があり、直接見聞きすることが大きな目的でした。

その結果、家々を明るくするだけでなく、村民の心に「自立」という灯がともろうとしていることを感じ、大変満足して帰ってきました。ここにその訪問時の村民の言葉や様子、合わせて私たちの活動内容の一部を報告いたします。

- 明かりのある暮らしにすっかり慣れてしまい（薪やろうそく、ランプの明るさより何倍も）、発電所が故障した時に、電気のないということはこんなにも暗くて不便なものだということが、改めてよくわかった。
- 部屋が明るくなったことで、室内がすすだらけなのがよく見えるようになった。
- 家庭で生活する時間が増え、夜更かしするようになった。
- 余剰電力を活用し、毎日の炊事用として導入している湯沸かし器を、320戸のうち250戸が使うようになったため、使用薪量の減少に相当役だっている。
- 年間1500トンだった森林伐採量が1/4程に減少した。
- 薪を運ぶ回数（年間）が100回から15回程度に減った。
- 昨年切ってた薪だけで充分足り、今年使ってもまだ残っている。

- 学校にラジオ、テレビを導入。英語教育の向上や社会情報の伝達によって生活に大きな刺激となっている。
- 周辺の村々から、教師研修や見学が相次いでいる。
- 薪運びなどの家事労働から解放され、通学生徒が増加しだした。
- 中学生の娘が夜遅くまで勉強できるようになった。

- 薪炊事の煙による、のどや目が痛くなるのが減った。
- 室内が明るくなりよく見えるので、今までの悪環境下での生活を改めて感じた。
- 村唯一の診断所での医療環境の改善（医療器具の煮沸、消毒など）

- 脱穀機、製粉工場等3ヶ所設置で、女性の労働時間が減少され、他の家事や子供を世話できる時間が増えた。
- 昼間の余剰電力を活用したパン工場の設置で、村の食習慣が変化しつつある。
- 村に多く自生している薬草の栽培、加工に電気を活用した、新しい産業づくりを予定。  
（当協会からの指導と援助を計画）
- となり村からの嫁入りの増加。理由「電気がついて生活が便利になったから」
- 町にあこがれていた村民の中にも、電気の通じた村にとどまろうと考える人が増えてきた。
- これまでに発電所が2回故障した。幸い大事にいたらなかったが管理体制（現在2名）が質、量とも不十分なため、非常に不安である。
- もっとレベルの高い技術者を多く養成し、故障しても対応できるようにしたい。研修への援助が欲しい。  
（どなたか村に行って、指導していただけませんか？）



[スケッチ 榎原 道治]

## ブジュン村を訪ねて

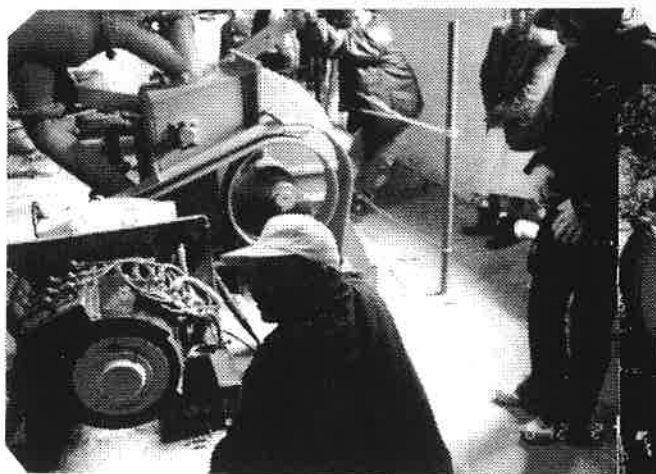
理事 山田 善仁

2000年12月2日 10:30～

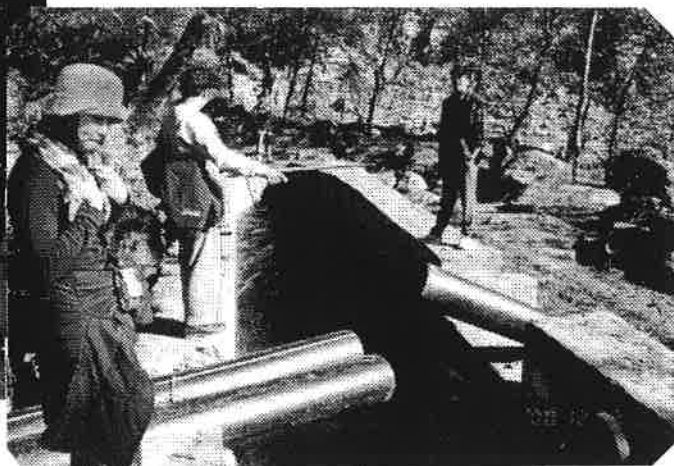
ポカラを出航したヘリコプターは、5人を乗せてブジュン村の所定の広場に着陸。村人にいつものことながら、多くのレイで歓迎を受ける。実にありがたい。カトマンドゥから直行している、次発隊と合流する。休憩中、直ちにブジュンの現状を知らされた。17日間も停電しているという。次発隊に同行されたシャンカールさんの助けを受ける。早速、訪ブ一行全員ミディムコラー沿いの発電所まで石段を下りる。発電所では既にシャンカールさんが点検修理を開始していた。ダイオードが悪く、パーツを取り替えれば復旧できるとのこと。修理の間、発電所々長さんに発電所の仕事、パン工場の沿革など、説明を受ける。電灯が灯って、この1年間の感想を村人に、徳島新聞の尾野記者がインタビュー始めていた。発電所で歓声が湧く。発電機が廻ったのだ。でも2分割している片方しか電気が通らない。ACAP広場の区域は電気が通らない。漏電しているのだろう。シャンカールさんの見解である。全員、ACAP広場まで帰る。今回の目的である患者診察のため、樫原、田尾医師たちは、早速村を巡回する。夕食後、ACAPセンターで、薄暗いランプ灯りのもと、患者のために投薬の調合を行うが、改めて電気のない不便さを味わう。

12月3日 8:30～11:50

樫原、田尾、三村組は、前日に引き続いて村内を巡回する。天野（親）、天野（真）、尾野、シュレンドラ、山田組は、発電所から取水口までを視察する。遠目で見る赤い取水管も近寄れば、いたる所で錆止めが剥がれている。又、塩ビの送水管も通路になっている所では、土が流れて剥き出しになっており、人畜の通行で傷んでくるのでは。早く土を覆わなければと感じた。また、蛇籠が一箇所外れており、その都度補修をしないと、何年も持たないのではないかと気掛かりだ。取水口では、洪水時に利用するバイパス用パイプが新設されていた。直接流れ込むと取水口が壊れるからだ。ありがたい。



<シャンカールさん発電機修理>



<取水口にて>



14:00

A C A P、B J電化委員、徳島ネパール友好協会で、完成から1年を経ての意見交換を行う。まず始めに、A C A P、B J村所長より「日本からB J村に来て下さる事を、数日前に連絡で知り、対応が遅れたことをお詫びします」と、長老からは「約束通り、12月3日徳島の日に合わせて来て下さったことが、本当に嬉しい」との話だった。

(普通は約束してもまず実行されないでいた。今回もB J村に来てくれるとは思わなかったとの事。)

諸氏の意見は

○今の電力で満足はしていない。増やせるものなら増やしたい。

○薪の使用料が1/4に減少した。

○薪の燃える煙害がなくなってきた。

○薪運びによる腰痛が減ってきた。

○家庭での夜の過ごし方が変わった。

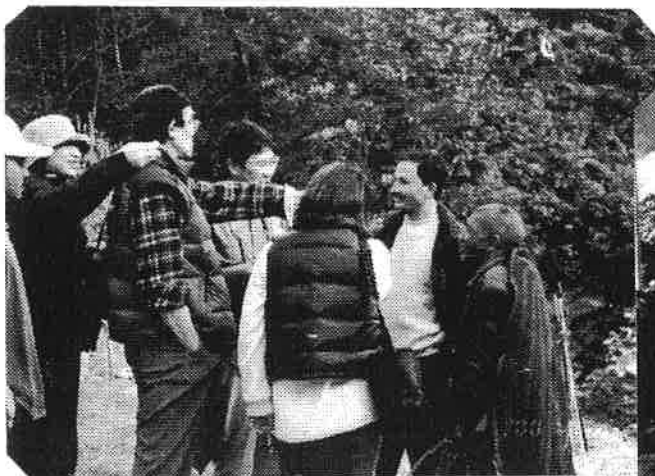
(子供の勉強、親の仕事、団らんが灯りの下でできる)

○電気修理のできる人を養成して欲しい。

○薬草の調査は、3月では山が凍っているので9月頃がよいのでは…等々

15:30

学校に移動する。校門には、日の丸とネパール国旗が掲げられており、村の礼節、文化の高さを知った。また、校門でたくさんのレイを、手には生花を生徒からいただいた。



<村人との談話>

日本人は職員室に案内され、村の教育関係者、及び生徒も入れるだけ入った。

校長先生から、各先生の紹介、また奨学金を受けている生徒ひとりひとりの紹介に続き、学校の運営等が説明された。

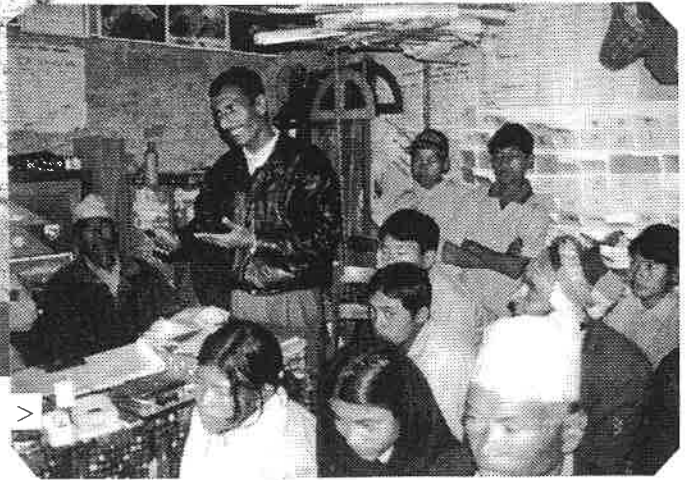
○電気が来たことで、ラジオ、テレビで英会話の授業を行っている。

○教材が増えたので、授業内容もよくなり、遠くの学校の先生が視察に訪れるなど、B J村の学校が、今注目されている。

○奨学金で卒業した人は、就職したら、無理のない程度で返していただき、次に奨学金を待っている生徒に廻せるようにする等の、お話しがあった。

式典後、奨学制度を利用している子供たちを囲んで校庭で記念撮影を行った。その後大勢の生徒、先生たちと歓談する。そして生徒たちに囲まれながら、あるいは団子になりながら、A C A Pセンターまで辿り着く。子供たちの心を感じた一時だった。

夜も、患者のためにランプの灯りの下で、投薬の調合を行っている。18:30頃、突然電気がついた。一同、シャンカールさんに感謝：合掌する。



< B J の学校にて (校長と奨学資金を受けている生徒たち) >

19:30

女性陣（田尾さん、天野真琴さん）の日本料理で、おいしい夕食をいただく。ああ、我々は所詮日本人なんだと実感した一時。

夕食後、A C A P の三人、シャンカールさんも交えて、シュレンドラさんの通訳で各々、現在の心境をしみじみと語り合い、大いにお互いの意思疎通をはかることができ、ブジュンまで来た甲斐があったと思った。

12月4日

連夜の犬の鳴き声と、村の子供たちとの哀愁が重なり、寝つかれないまま朝を迎えた。朝食後、ヘリコプターが来る時間まで、田尾さんは村人の診察を。尾野記者は、シャンカール取材をこなす。お別れの儀式が始まった。いつもの事ながら辛い。

8:30

ヘリ乗り場がいつもの所と違うということで、集落下の畑まで大移動。村人の見送りの中、ポカラ行きへのりに2便に分けて搭乗する。

10時過ぎ、カトマンドゥ行きが遅れている情報で、昼食にレイクサイドに向かう。昼食後も、まだ飛ぶ気配なく、買物をすます。

樫原先生のスケッチ等で、他の客も少しは気が紛れる。後はただひたすら待つ。

16:00

今日はカトマンドゥ便は飛ばないとの情報に全員うんざり。

シュレンドラさん、チャーター便（ライトバン）を捜す。

17:00

カトマンドゥに向けて出発。18:30ディムレを通過。

19:00過ぎ

ムブリンで夕食（一昨年と同じ場所） 樫原先生、天野真琴さん疲れで車の中。

22:05

マイホームに到着。いろいろ体験した今回。やはりここはネパールでした。

ダンネパー ブジュン。ダンネパー ネパール！  
ネパール、アサデエイ、マヌパルチャ。（ネパール大好き）！  
ペウエーベトウラ。（又、お会いしましょう）！

## ネパール訪問 「第一章」

徳島県立中央病院

研修医 田尾佳代子

学生の頃は、「現地で住む人々の生きる様を実感するんだ」と真剣にそんな初歩的な目標を掲げて、各地を歩いていた。行けば必ずよき出会いがあり、現地の問題も見えてくる。じゃあいったい何が自分にできるのか？医療協力に関して、まだまだ自分の実力のなさ自分への思い上がりを身にしみてからは、1人前になるまで物見たさで自己満足的な途上国訪問は止めようと心に誓っていた。そんなはずの昨年10月、徳島県立中央病院でローテート研修を始め、会員であった脳神経外科の榎原先生がネパールに行くらしいといううわさを聞きつけ、誘われてもいないのに勝手に決めて即決心。結局、まだ研修医1年目で何ら役に立てるわけもなく、学生の時と何ら変わりばえない旅行となってしまったが、それでも自分にとっての収穫は大であった。

黒目がちな子供達が甲高い声を上げて元気に遊ぶ姿は、胸を射抜かれる思いがした。母親にもなったことのない自分には子供が好きなのかどうかなんてわからないけれど、やっぱり小児科を選んでよかったと思う瞬間である。ネパールは乳幼児死亡率も群を抜いて高く、5歳になるまでに多くの子供が命を落とす。我々が目にするネパールの子供達は日本の子供より生きいきしているためか、死ぬ場面に遭遇しない限りそんな事実も忘れてしまいがちである。カトマンズ・モデル・ホスピタルで話した小児科医は、一人で新生児から児童まで、入院から外来までをこなし、小児科医を選んだ理由として「ちょっとした診療で多くの子供を救うことができるからだ」という。何年たっても途上国における小児の死因は下痢と呼吸器疾患であり、遺伝子操作の倫理問題などは次元が違いすぎて比較の仕様がなない。カトマンズに住むスーマンさん達は、そんな世界の状況を知りながらも己だけの利益を求めようとせず、崇高な理想を掲げて、病院、里親制度、日本語学校などを展開している。

自身をなくしていても時は経つばかりで、何も事は始まらない。現に、天野会長は何もなかった村に電気をつけ、次は経済発展だと意気込んでいる。光がついた瞬間、天野さんが大きく両手を広げて「万歳、万歳！！」と大声を出してブジュンと自らのこれまでの苦勞に賞賛する姿はとても印象的であった。自分も一生のうちで何かやり遂げられたら……。とりあえずは、できることから始めようと思います。第二章、三章と続くように。

どうか今後ともよろしく御願ひ申し上げます。



<患者診察の田尾医師>



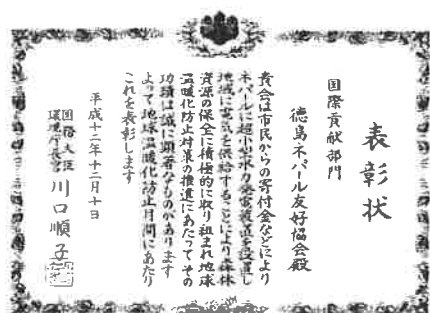
<クスリの調合(ノートを切って)>

## 地球温暖化防止活動で大臣表彰！！

1997年の京都会議に、地球温暖化防止に向けた動きが、行政、事業者、国民一体となって推進されつつあり、この機運をさらに高め、国民運動として発展させるため、毎年12月を「地球温暖化防止月間」に指定し、官民一体となって、普及啓発事業を進め、様々な取組を展開しているものである。

環境庁では本年度、兵庫県及び神戸市とともに、地球温暖化防止活動大臣表彰式・地球温暖化防止活動事例発表会・各種パネル展示・シンポジウムなどの行事が、大臣出席の下に開催された。

当協会の、ネパール・プジュン村の小水力発電所の支援が、国際貢献部門で地球温暖化防止について功績があった団体として受賞することとなった。



## 平成12年度地球温暖化防止活動大臣表彰式に出席して

徳島ネパール友好協会名誉会長

中瀬 敬之

「この炭非常に軽いですね」

「ええ、ケナフで出来ていますから」

「ケナフ？ どこかで聞いた名前ですネ。確か、紙の原料か何かに？」

「はい。いま私達が、紙とか炭の原料として、全国にケナフ栽培を広めようとしているものなのですが」「それなら、いろいろな植林活動と何処が違うのですか、同じでは？」

「いえ、ケナフはアオイ科の一年草で、成長が非常に早いので、炭酸ガスの吸収が多く地球温暖化防止対策には、非常に優れたものです。」「だから、多くの人達にケナフを栽培して、紙を漉いたり炭にしたりして頂けるように、今日ここに展示して、皆様にケナフをよく理解して貰うつもりです。」「へえ、地球温暖化対策ですか。我々も、ネパールで極小水力（水車）発電所を建設して、先ほど環境庁長官から表彰されたばかりです。」

以上の会話は、平成12年12月10日の午後、神戸市ポートピアホールの「地球温暖化防止シンポジウム in ひょうご・神戸」会場での会話である。

この日の午前10時、ポートピアホテルで、わが「徳島ネパール友好協会」は環境庁の平成12年度地球温暖化防止活動大臣表彰を受けました。表彰団体・グループは全部門で17団体でした。わが協会も国際貢献部門で大臣表彰を授与され、全員で記念撮影を行いました。その後、12グループの事例発表が一人当たり8分間割り当てられました。私も、ネパール国・プジュン村での徳島ネパール友好協会の活動が、燃料として伐採される樹木の減少防止に役立っていることを、報告しました。国内でのリサイクル活動関係の団体が多いなかで、特に多くの方々に関心を持っていただきました。

これは我々の活動が、地球温暖化防止活動として、環境庁が認めるほど意義有る活動であった証明と思われる。ひとえに、会員皆様のご協力と多くのご援助頂きました会社・個人の賜りと深く感謝致します。ありがとうございました。

我々にも突然のこの表彰は、徳島県環境生活部の推薦によるものです。同部21世紀環境推進チームの関係者の方々に、徳島ネパール友好協会として、厚く御礼申し上げます。

## 徳島ネパール友好協会活動報告

(注) 2000年8月～12月 総会終了後

- ◎ 8月12日(土) シャンカール・ラル・バイディア氏来徳 歓迎会  
13日(日) " 関係先表敬訪問  
～18日(金) 四国電力三好郡内発電所視察等  
26日(土) 第1回理事会
- ◎ 9月2日(土) 中瀬前会長おつかれさま会  
シュレンドラ・ドンゴール夫妻来徳歓迎会(グランドパレス)  
4日(月) " 学校訪問・観光等  
～14日(木) " 送別会(9月13日)  
29日(金) 国際交流基金地域交流振興賞受賞申請: 県国際交流協会
- ◎ 10月7日(土) 第1回ネパール語勉強会: 県国際交流協会会議室  
(第2～4回……10月中)  
7日(土) 第2回理事会  
15日(日) 国際ふれあいフェスティバル&フォーラム  
～22日(日) 徳島駅ビル・クレメントプラザ……写真パネル展示
- ◎ 11月4日(土) 第5回ネパール語勉強会  
11日(土) 第6回 " "  
18日(土) 第7回 " "  
18日(土) ブジュン村「徳島の日」式典出席使節団準備会  
25日(土) 徳島新聞・尾野記者「徳島の日」取材のためネパールに出席  
25日(土) 第8回ネパール語勉強会
- 25日(土) 第3回理事会  
29日(水) ブジュン村「徳島の日」式典使節団先発グループ出発
- ◎ 12月1日(金) " " 次発グループ出発  
2日(土) 第9回ネパール語勉強会  
3日(日) ブジュン村「徳島の日」式典……現地  
6日(水) ブジュン村使節団帰国  
9日(土) 第10回ネパール語勉強会  
10日(日) 平成12年度地球温暖化防止活動(国際貢献部門)  
環境庁長官表彰式(神戸市)  
12日(火) ブジュン村「徳島の日」徳島西ロータリークラブで講話  
(徳島東急イン)  
20日(水) 徳島県～国際総室・環境政策課等に大臣表彰であいさつ  
23日(土) 第4回理事会

# 徳島ネパール友好協会

☎779-3211

徳島県名西郡石井町藍知字西覚円718-5

TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

○事務局よりお願い 会費未納の方は、下記に振込んで下さい。

振込先

(銀行振替) 阿波銀行 石井支店 (普) 1009369 徳島ネパール友好協会

(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会

吉住千亜紀さん開設ホームページ、アドレス

[星とネパール] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/-private>

[徳島ネパール友好協会] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/TONFA/t-nepal>